



高知家 総合診療 専門研修 プログラム

General Medicine
Residency Program

募集案内



＼高知家プログラム Web動画はこちらから！／



高知家総合診療専門研修プログラム

応募手続き・選考方法

応募：高知家総合診療専門研修プログラム統括責任者に必要書類を提出
(詳細は Web サイト参照)

募集定員：12名／年

研修期間：3年間

採用試験：書類選考・面接

処遇・手当：一般社団法人高知医療再生機構及び研修病院の規定による

お問い合わせ先

高知家総合診療専門研修プログラム事務局 (高知大学医学部家庭医療学講座)

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

メール kochisogopg@gmail.com 電話 088-880-2761

Webサイト <http://kochisogopg.com/>



Lifeを診る医師

病気を診るのではなく、人を診る。

人だけでなく、地域も診る。そんな視点をもって、

併存するあらゆる疾患や患者さんを取り巻く課題に対応できる医師。

自身が連携の要となり、医療・保健・介護・福祉など多様な地域資源をつなぎながら

患者さんの生命・生活・人生を支えることのできる地域包括ケアのリーダー。

それが、高知家総合診療専門研修プログラムが目指す総合診療医の姿です。



Message

人と地域に寄り添う、未来の総合診療医へ



医療技術の進化とともに、AI が診断や治療の一端を担う時代が到来しつつあります。しかし、人々の暮らしに寄り添い、心の機微に耳を傾け、地域の中で共に歩む医療は、いかに技術が進んでもAI には決して果たせない領域です。総合診療医とは、年齢や臓器、疾患といった枠を超えて、人とその生活背景、家族関係を深く理解し、地域社会にも目を向ける「地域を診る医師」です。高知家総合診療専門研修プログラムでは、人口集中地からへき地・離島、中核病院に至るまで、さまざまな医療現場を舞台に、地域のリアルに真摯に向き合う力を育んでいきます。病を診るだけでなく、生活、人生、そして社会を見通す幅広い視点を持ち、地域を支える中心となる医師を育成します。人のそばで、地域のなかで、生きた医療を学びたいあなたの参加をお待ちしています。この高知の地で歩む3年間は、きっとあなた自身の可能性を大きく拓くことでしょう。

高知家総合診療専門研修プログラム 統括責任者

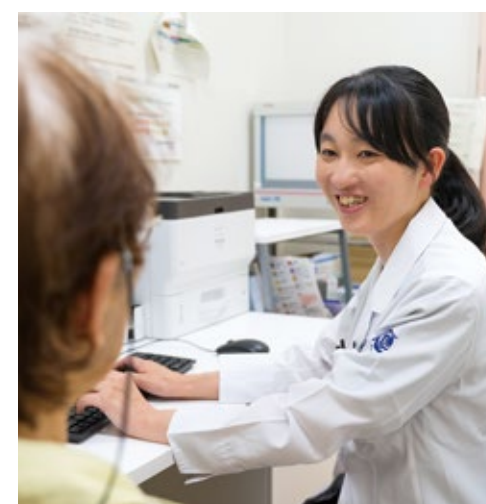
高知大学医学部 家庭医療学講座 教授 阿波谷 敏英

Voice ～総合診療専門医の今～

患者さんの望む治療と暮らしを 包括的・継続的に支える

急性期だけを切り取って診るのではなく、その人の背景や退院後の療養生活など患者さんの人生そのものを診ることのできる医師になりたいと考え、総合診療医を目指しました。このプログラムは指導医が豊富なこと、気軽に相談できる体制があること、専攻医1年目から定期外来を持って患者さんと信頼関係を築きながら変化を診ることができることなど、意欲的に学べる環境が整っていました。専門研修期間中、診療においていちばん悩ましかったのは糖尿病の管理です。そこで総合診療専門医を取得した後、糖尿病専門医も取得しようと高知医療センターの糖尿病・内分泌内科で研修に臨み、今年、4年ぶりに総合診療科に戻ってきました。目指すのは、糖尿病に強い総合診療医です。地域の暮らしに寄り添いながら、学んだことを患者さんやご家族に還元していきたいと考えています。

2018年度研修開始、2020年度研修修了
江端 千尋 (2015年度 高知大学医学部卒業)



高知家総合診療 専門研修プログラムとは

高知家総合診療専門研修プログラム（以下、高知家プログラム）は、高知大学医学部附属病院を基幹施設とし、他に県内 34 の医療機関が連携する全国でも最大規模の総合診療専門研修プログラムです。

高齢化や過疎化、医療資源の中央集中など多くの課題が全国に先行する高知県全域をフィールドにしており、地理的にも医療機能的にも多様な場において各施設の特徴を活かした研修が可能です。また、志望するキャリアに合わせたオーダーメイドな学びが構築できるため、将来、都市でもへき地でもあらゆる環境において責任を持って診療ができる総合診療専門医になることができます。

▶ 高知家プログラムの特徴

四国最多の育成実績

2018 年の制度開始以来、四国で最も多くの総合診療専門医を育成しています。

35 施設が集結

三次医療を担う大学病院から地域の中核的な病院、プライマリ・ケアを担う診療所までさまざまな医療機関で構成されています。

学びをオーダーメイド

高知大学医学部附属病院を基幹施設として、志望するキャリアに応じた適切なローテーション研修ができるよう調整します。

地域に密着

地域包括ケアシステムを担う一員として、多様な経験を積むことができます。

総合診療専門医に求められる 7つの資質・能力

プログラムを通じて、病院、診療所などで活躍する確かな診療能力と、地域包括ケアシステムのリーダーとなる資質を養います。

連携重視の マネジメント

多職種協働のチーム医療
医療機関連携及び医療・介護連携
組織運営マネジメント

地域志向 アプローチ

保健・医療・介護・福祉事業への参画
地域ニーズの把握とアプローチ

公益に資する 職業規範

倫理観と説明責任
自己研鑽とワークライフバランス
研究と教育

多様な診療の場に対応する能力

外来診療 救急医療
病棟医療 在宅医療

包括的統合 アプローチ

未分化で多様かつ複雑な健康問題への対応
効率よく的確な臨床推論
健康増進と疾病予防
継続的な医療・ケア

患者中心の 医療・ケア

患者中心の医療
家族志向型医療・ケア
患者・家族との協働を促す
コミュニケーション

一般的な健康問題に対する診療能力



成長を支える キャリアサポート

1 ポートフォリオ発表会

年 2 回、研修中に作成した各自のポートフォリオを持ち寄って発表します。異なる研修先にいる専攻医や指導医からの質問やフィードバックを受けて新たな気づきや学びを得ることができます。

2 総合診療セミナー

コミュニティ・ケア、メンタルヘルス、臨床研究、EBM、救急、漢方など総合診療医として身に付けていくべき領域について専攻医・指導医とともに学ぶ機会を定期的に設けています。専攻医の希望に応じて内容を決め、その道のエキスパートを招聘しています。

3 各種研修会への参加支援

日本プライマリ・ケア連合学会学術集会などの全国で開催される学会や総合診療に関する知識や技術のブラッシュアップにつながる勉強会への参加を推奨しています。参加にあたっては一般社団法人高知医療再生機構の専門医等養成支援事業を利用した参加費・出張旅費の助成制度があります。

4 施設外指導医

救急科研修や小児科研修といった総合診療専門研修以外の期間や研修施設でも、総合診療医としての学びと振り返りが途切れることがないように専攻医の希望に応じて施設外指導医を決めています。メンターとしての役割とともに定期的な振り返りやポートフォリオの作成支援を行います。



専門研修の流れ

高知家プログラムは、専門研修1・2年次と専門研修3年次に分かれており、それぞれ研修の目的や内容、研修施設が異なります。

【専門研修1・2年次】 → 研修施設・モデルコース詳細はP.8へ

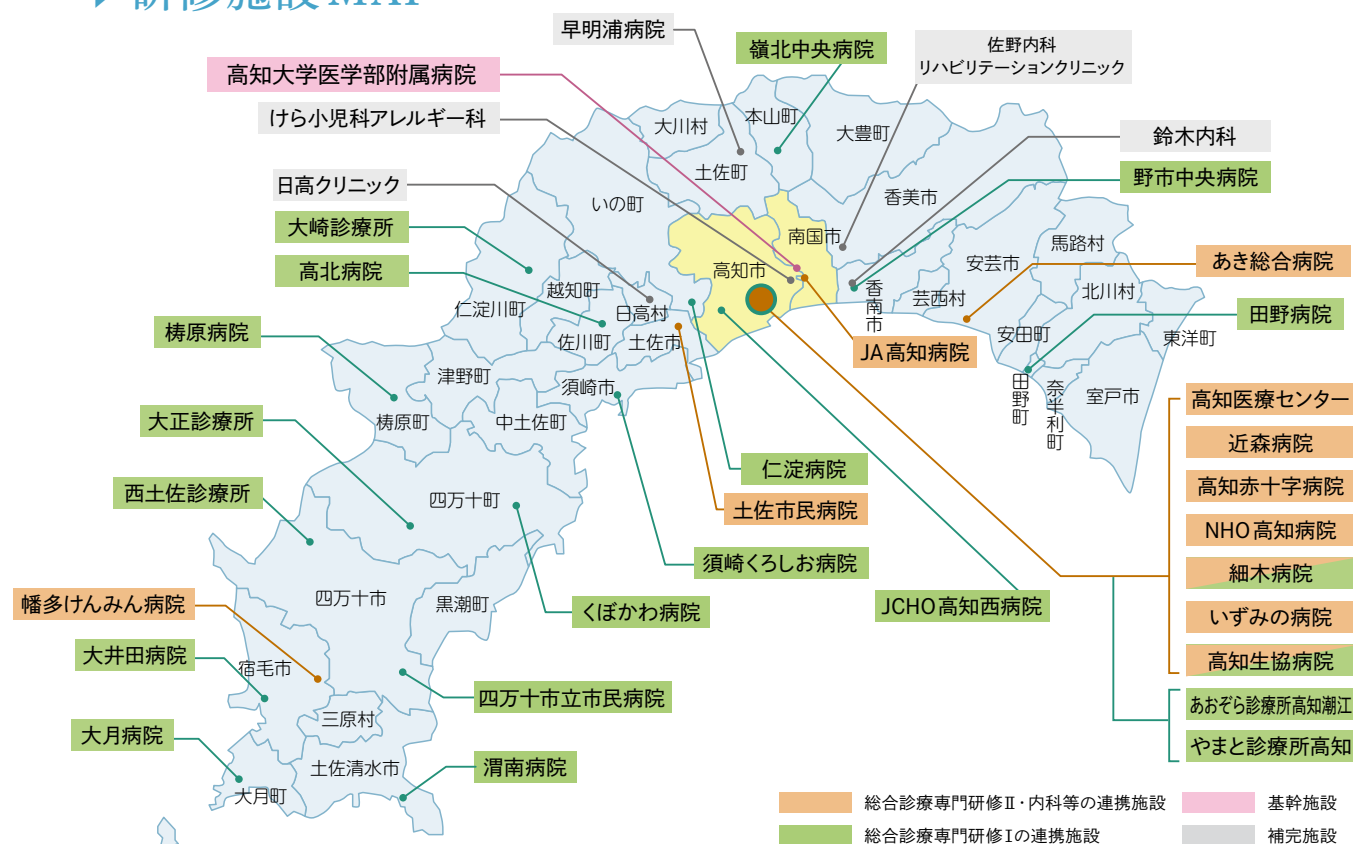


- ▶ 概要
- ・「総合診療Ⅱ」「内科」「小児科」「救急科」を中心に研修
 - ・「総合診療Ⅱ」「内科」を主軸とした10の連携施設群コース（モデルコース）をベースに調整
 - ・希望により「その他領域別」の研修が可能
 - ・他の専門領域のダブルボード取得にあわせた変更が可能

▶ 研修の目標

- ・患者の健康問題を把握し適切な評価を行い、Common disease については、上級医の指導のもと治療方針を決定することを学ぶ
- ・患者の健康問題について心理社会的な問題を含めた評価を行い、多職種と協議しながら治療・ケアの方針を決定することを学ぶ

▶ 研修施設MAP

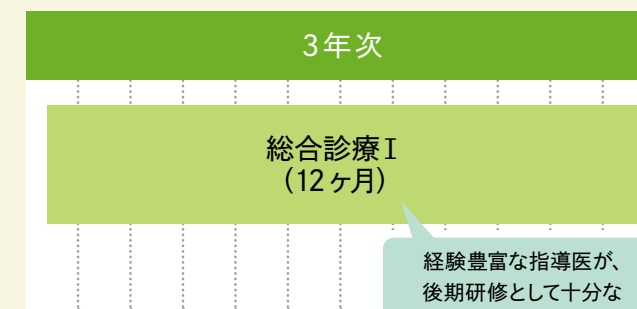


研修ローテートと地域医療についての考え方

- ・「総合診療Ⅰ」及び「総合診療Ⅱ」の双方もしくはいずれかで高知市・南国市（上図の黄色）以外にある医療機関での研修を行うようにローテートを決定します。「総合診療Ⅰ」の20施設のうち15施設、「総合診療Ⅱ」の10病院のうち3病院が高知市・南国市以外の地域にあります。
- ・「内科」「小児科」「救急科」の研修は、「総合診療Ⅱ」と同じ病院で研修を行うことを

- 推奨します。「総合診療Ⅱ」の病院がこれらすべての研修を提供できない場合、高知大学医学部附属病院を含め複数の病院でこれらの研修を行います。
- ・「その他領域別」研修（1ヶ月単位6ヶ月以内）は、高知大学医学部附属病院のほか、「総合診療Ⅱ」を担当する9病院で行うことができます。
 - ・ローテートは、専攻医の希望や到達目標の達成状況を考慮して調整します。

【専門研修3年次】 → 研修施設詳細はP.14へ



- ▶ 概要
- ・「総合診療Ⅰ」を研修
 - ・20の連携施設から専攻医のニーズにマッチした研修施設を調整
 - ・希望により週1回、補完研修が可能

▶ 研修の目標

- ・複数の健康問題を持つ患者、複雑な社会背景を抱える患者、在宅医療・看取りを必要とする患者に対し、多職種協働のもとで適切なマネジメントを行うことを学ぶ

総合診療専門医取得



▶ 専門研修における学び方

専門研修における学び方は大きく以下の3つに分けられ、それぞれの学び方に習熟し、生涯にわたって学習していく基盤とすることが求められます。

1) 臨床現場での学習 外来・病棟・在宅・救急医療、地域ケアなど

On-the-job training (OJT) を基盤とし、臨床上の疑問に対して EBM の方法論に則って文献等の収集、批判的吟味を行うプロセスと、総合診療、家庭医療のさまざまな理論やモデルを踏まえ、経験そのものを省察して能力向上を図るプロセスを両輪とします。全研修期間にわたり、外来・病棟・救急・在宅の患者について個人情報に十分配慮した上で、そのプロブレムリストや自らのアセスメントを症例ログとして記録します。学習履歴と自己省察を記録し、ポートフォリオ作成を行うことで専攻医自身が成長していきます。

2) 臨床現場を離れた学習

- ・1カ月間の症例ログをもとに、指導医とともに定期的な振り返りを行います。この症例ログには、指導医とのディスカッションや文献検索で得た学びを併せて記録していき、ポートフォリオ作成につなげていきます。
- ・総合診療の7つの資質・能力をより深く理解するために、総合診療の基盤となる家庭医療の理論的背景を日本プライマリ・ケア連合学会等の学術集会やセミナー、研修会に参加し学習します。
- ・県内で行われる総合診療カンファレンスのほか、内科、小児科、感染症、医療安全、災害救急などの研修会に参加し学習します。
- ・定期的開催するポートフォリオ発表会に参加し、自身の作成したポートフォリオに指導医や他の専攻医からフィードバックを受け、より学びを深めます。

3) 自己学習

- ・研修プログラム内での学習を強化するために、総合診療、家庭医療等に関する各種テキスト、医学雑誌、ウェブサイト、日本医師会他の e-learning 教材、診療ガイドライン等を活用して自己研鑽に努めます。

▶ 専門研修における研究

- ・研修プログラムにおいて生じる臨床的な疑問に対して問題解決型自己学習を行いながら、科学的かつ論理的思考を身につけます。
- ・全研修期間を通じて積極的に学術活動を行い、年1回程度、筆頭者としての学会等の発表、研修期間を通じて一編以上の論文発表（筆頭者）を行います。
- ・本研修プログラムでは、高知大学医学部家庭医療学講座、附属病院総合診療部の教員が指導医として学術活動を支援します。

専門研修1・2年次

専門研修1・2年次は、「総合診療Ⅱ」「内科」「小児科」「救急科」「その他領域別」の研修を行う施設群にて研修を行います。高知家プログラムでは「総合診療Ⅱ」と「内科」を同一施設で研修することができる施設、または両者の研修が連携できる施設群を中心に10のモデルコースを準備しています。同じ施設内で「小児科」「救急科」が研修できない場合、連携施設内の研修施設にて研修を行います。

10のモデルコース

- あき総合病院群コース
- 幡多けんみん病院群コース
- 高知医療センター群コース
- 近森病院群コース
- NHO高知病院群コース
- 細木病院群コース
- JA高知病院群コース
- いずみの病院・高知赤十字病院群コース
- 土佐市民病院・高知赤十字病院群コース
- 高知生協病院・高知赤十字病院群コース

基幹施設
高知大学医学部附属病院



▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科 ^{※1}	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他：形成外科		

※1:消化器内科、内分泌代謝・腎臓内科、呼吸器・アレルギー内科、血液内科、老年病・循環器内科、脳神経内科

▶ 専門研修1年次の週間スケジュール（高知県立幡多けんみん病院の例）

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
7:00					離島診療 (鶴来島) 月1回		
8:00	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	内視鏡 検査		
9:00	初診外来	救急 対応	定期 外来	病棟 or 救急 対応			
10:00		病棟	病棟				
11:00							
12:00					病棟	OFF	OFF
13:00							
14:00							
15:00	病棟						
16:00							
17:00					病棟カンファレンス		
18:00							
19:00							
20:00							

休日の日当直は月2回ほど。
気になる患者さんは、休みでも
様子を見に来たりします。

平日の当直は月1～2回、
内科の待機（オンコール当番）は週に1回ほど。
頼れる上級医の先生方が
バックアップしてくださり安心です。



Model Course

2

幡多けんみん病院群コース

幡多で育む総合診療力



幡多けんみん病院

▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科 ^{※1}	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他		

※1:内科、消化器内科、循環器内科



多職種カンファレンス



指導医（中央）川村 昌史

▶ 幡多けんみん病院 紹介

- 地域の基幹病院で積み重ねる経験値、よくある病気から希少疾患まで経験可能**
 - 対象人口約9万人の生命を守る基幹病院として1次～3次まで幅広い疾患を経験できます。
 - 疾患のみではなく、患者さん自身やその背景まで考慮した診療を経験できます。
 - 高知大学医学部学生教育や臨床研修医教育に携わることができます。
- 挨拶あふれる温かな職場、医師もコメディカルも気軽に相談し合える職場環境**
 - 医師がワンフロアに集まり診療科間の垣根が低く、各領域の専門医と気軽に相談可能です。
 - チーム医療が充実し、各領域のコメディカルスタッフの持つ専門知識を活用できます。
- 幡多地域の懷に飛び込み、生きた地域医療研修を体験できる**
 - 月1回程度、地域の小規模病院や離島診療所での勤務を経験できます。
 - 行政や福祉との連携した医療を経験できます。

▶ 2年間のローテーション例

1年次	2年次
総合診療Ⅱ 内科(内科・消化器内科・循環器内科)	救急科 (高知医療センター) 内科(内科・消化器内科・循環器内科) 小児科

▶ コースの特徴

- ★ **患者さんの持つ諸問題に対応できる医師になれる**
 - 医療福祉保健を連携して、患者さんにより良い生活を送っていただくためのスキルを身につけることができます。
 - 地域で必要とされる各種手技を身につけることができます。
- ★ **幡多の豊かな自然や食、地域に住む優しい人々を堪能できる**
 - 穏やかに流れる四万十川や雄大な太平洋など豊かな自然を味わえます。
 - 山、川、海の幸が充実しており、油断をすると体重が増えるほどの美味しい驚きが待っています。

Model Course

3

高知医療センター群コース

1施設だけで2年間の総合診療研修を完結できる唯一のコース



高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター

▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科 ^{※1}	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他：放射線科・放射線療法科		

※1：消化器内科、腎臓内科・膠原病科、呼吸器内科、血液内科・輸血科、循環器内科



高知ドクターヘリ「勇気の花」号



指導医 石井隆之（後列右から4人目）
吉村彰人（後列一番右）
総合診療専門医 田邊義貴（左から5人目）

▶ 高知医療センター 紹介

1 救急医療センターとコラボレーションして複数科に渡る幅広い症例を豊富に経験できる

当院の救命救急センターには、二次病院レベルの症例も時間外に搬送されてくることから、救急の医師と相談をしながら総合診療科において救急患者さんを入院症例として急性期病棟でたくさん受け持つことができます。

2 総合診療科外来と病棟での研修を通じての一貫した継続性のある総合診療を学べる

総合診療科外来は、4列で外来を行っており、複数の疾患を抱えている患者さんやどの診療科を受診したらよいか迷っている患者さん、紹介状のない初診患者さんなど、多くの患者さんが来院されます。専門診療科の医師も多く、困った時には相談に乗ってくれる恵まれた環境です。また医学生や臨床研修医と一緒に総合診療を学べます。

3 複数の指導医、総合診療専門医のもとで安心して研修ができる

若手医師からベテラン医師まで在籍しており、どんなことでも相談しやすい環境です。手厚いサポートを受けながら総合診療医として成長することができます。

▶ 2年間のローテーション例 ☐ 自施設 ☐ 連携施設から自由選択 ☒ オススメの連携施設

1年次	2年次
総合診療Ⅱ	救急科
	内科
	小児科

▶ コースの特徴

★ 豊富な臨床・指導経験を有する多くの指導医の連携によって専攻科研修をサポート

高知医療センターでは、県内で唯一、総合診療専門研修Ⅱ、内科、救急、小児科、マイナー科などを一施設だけで完結することが可能です。複数の施設を行き来することに抵抗のある方にはお勧めのコースです。

Model Course

4

近森病院群コース

救急に強い総合診療医育成コース



近森病院

▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他		



診断推論カンファレンス



指導医 浅羽宏一・中山修一

▶ 近森病院 紹介

1 専門性に隔たることなく、あらゆる内科疾患に対応する大内科制

「サブスペシャリティ専門医である前にジェネリストであれ」という方針のもと、専攻医は内科に所属し、あらゆる内科疾患患者をサブスペシャリティ上級医とともに屋根瓦形式で担当しています。

2 北米型 ER 体制をとる救命救急センター

1次から3次までのすべての救急患者に対応しており、重症患者だけでなく軽症の救急疾患やCommon diseaseを内因性・外因性を問わず数多く経験できます。

3 積極的なチーム医療の取り組み

薬剤師・栄養士・PT・OTなどのメディカルスタッフを、同規模病院の1.5～2倍、各病棟に配置しており、高い専門性を持ちながら一緒に診療に当たっています。また各科の医師・メディカルスタッフとの垣根が非常に低く、コミュニケーションがとりやすい環境にあります。

▶ 2年間のローテーション例 ☐ 自施設 ☐ 連携施設から自由選択 ☒ オススメの連携施設

1年次	2年次
総合診療Ⅱ	救急科
内科（循環器内科、内分泌・代謝内科、消化器内科、呼吸器内科、脳神経内科、血液内科、腎臓内科・人工透析内科）	小児科（細木病院）
皮膚科	整形外科

▶ コースの特徴

★ 救急対応に強くなれる 幅広い内科疾患が学べ、「なんでもこい!」と自信がつく。

★ 経験豊富な内科系・外科系のサブスペシャリティ専門医・指導医の連携による指導体制で、足腰の強い（基礎力のある）、レベルの高い総合診療医・家庭医になれる

★ 病歴・身体所見を重視した診断推論カンファレンスにより外来初診時の診断能力が高まる

★ 漢方薬と栄養指導（栄養科と連携）で、がん患者サポート療法に強くなれる

★ 3年目は総合診療専門研修Ⅰとして、大井田病院での研修を予定

Model Course

6

細木病院群コース

Hospitalist（病院総合診療医）の養成を目指す



細木病院・外来棟

▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他		



ほそぎハートセンター（2020年6月開設）



指導医 総合診療科科长 細川滋俊

▶ NHO高知病院 紹介

1 内科総合外来及び救急外来にてCommon diseaseを豊富に経験できる

内科総合外来では多彩な症状を訴える新患者さんへの対応、紹介患者さんへの対応、慢性疾患の管理などを通して幅広い外来スキルを学んでいます。救急外来においては軽症から重症、小児から高齢者まで主に1次、2次救急に対応し地域で発生する幅広い救急要請を受け入れ、地域医療の大切な一翼を担っています。重症度の判断、入院の判断や、各専門家へのコンサルトの是非について判断することが求められ、指導医とともに学んでいます。

2 他職種との連携がスムーズ

さまざまな健康課題を解決するため、医療関連専門職との緊密な連携があります。周辺の医療機関、介護保険施設等と連携し、カンファレンスやフォーラムなどに参加し、地域包括ケアを実現している現場で学んでいます。

3 国立病院機構のネットワークにおいて長期的なキャリアアップが可能

機構本部が主催する若手医師対象の定期的な宿泊研修や留学制度への参加が可能です。

▶ 2年間のローテーション例 ☐ 自施設 ☐ 連携施設から自由選択 ☒ オススメの連携施設

1年次	2年次
総合診療Ⅱ	内科（消化器内科、リウマチ科、産婦人科、整形外科、泌尿器科、呼吸器内科、血液感染症・循環器内科）
領域別研修（外科・呼吸器外科、産婦人科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科）	小児科
内科（内科）	救急科

▶ コースの特徴

★ 豊富な指導経験、指導医の連携によって研修をサポート

・病院全体に総合診療医育成についての理解があり、それぞれの診療科ではCommon diseaseを中心に学べます。

・総合診療医としてのスキルに重要な種々の研修施設に認定されています。

★ 呼吸器疾患に強い総合診療専門医になれる

日本呼吸器学会認定研修施設であり症例も豊富です。指導医自身のサブスペシャリティ領域も呼吸器科であり、Common diseaseに占める呼吸器疾患は多く、専門的に学ぶことも可能です。

Model Course

7

JA 高知病院群コース

内科・小児科を中心とした一次から二次救急を主とした総合診療コース



JA 高知病院

▶ 研修可能な領域



多職種ミーティング



指導医 住友 賢哉

▶ JA 高知病院 紹介

1 内科、小児科を主として乳児から超高齢者まで幅広い年代の患者を診療できる
内科、外科、耳鼻咽喉科、小児科を含む南国市の中核病院として、外来診療に始まり、他診療所からの紹介や救急、入院患者の対応も含めた疾患に対応しています。患者層は乳児から超高齢者に至るまで幅広く、総合的な臨床経験を積むことができます。特に小児科を含む総合研修が可能な病院です。

2 外来では Common disease から重篤な疾患まで幅広く経験できる

Common disease から重症症例、血液透析まで、小児科においては発達障害を含めた診療を、外科においては内視鏡手術を主体とした一般外科手術を行い、幅広い診療を経験することができます。

3 入院では急性期対象の疾患から地域包括ケア病棟対象の慢性期疾患まで幅広く経験できる

内科で主体の高齢者医療は在宅復帰に導くことが重要です。急性期病棟～地域包括ケア病棟～在宅医療への一連の医療経験が可能です。具体的には病棟医療チームによるカンファレンスや自宅や施設などへの退院 支援、退院調整を行い、在宅医療へと導く多職種による協働作業を経験、習得できます。

▶ 2年間のローテーション例



▶ コースの特徴

- ★ **多職種の連携によって研修をサポート**
当院でチーム医療をベースとして、他職種の視点から機器の使用や患者さんの状態観察を行い、専攻医の臨床診療をサポートします。
- ★ **幅広い疾患に対応できる総合診療専門医になれる**
幅広い疾患に対応している病院であり、総合診療専門研修Ⅲに必要となる症例の多くを豊富に経験できます。

Model Course

8

いずみの病院・高知赤十字病院群コース

高度救急から Common disease まで緩和回復期医療も学べる



いずみの病院

▶ 研修可能な領域



院内 7階サンルーム



指導医 夕部 富三

▶ いずみの病院 紹介

1 経験豊富な総合診療指導医 2 名

2名の指導医はすべて診療所・中小病院から大病院のそれぞれの臨床経験が豊富です。診療所では内科を中心に整形外科、小児科や耳鼻科など科を超えて地域のニーズに添った診療を行ってきました。病気の診断治療だけでなく、検診、予防活動、地域作りまで行政や住民との連携や協働の経験も豊富です。

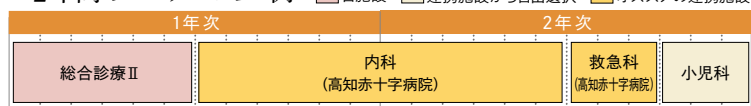
2 Common disease から稀な疾患まで経験できる

1次 2 次の救急から日常病を中心にまれな疾患まで豊富に経験できます。高知市北東部の基幹病院として、また地域のかかりつけ病院としての機能も有し、地域で起こるあらゆる健康問題に対して豊富に経験できます。

3 チーム医療の実践

一つの医局に専門医(外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・循環器科・消化器科・呼吸器科・脳神経内科など)がいて日々教えてもらえます。定期的な NST、リハカンファレンス、退院調整会議など、院内外が多職種連携がスムーズです。

▶ 2年間のローテーション例



▶ コースの特徴

- ★ **豊富な現場経験のある指導医の連携によってすばらしい研修が受けられる**
- ★ **全人的医療に強い総合診療専門医**
病気だけを診ずるを診る全人的な医療を身につけることができます。
- ★ **救命救急センターを有する急性期病院・災害拠点病院**
3 次救急から Common disease まで幅広い経験ができます。また災害拠点病院として災害医療についても学べます。

Model Course

9

土佐市民病院・高知赤十字病院群コース

救急から地域医療まで



土佐市民病院

▶ 研修可能な領域



退院支援カンファレンス



指導医 植瑞希・田中肇・平川 楊子・竹中 奈奈

▶ 土佐市民病院 紹介

1 内科(消化器・循環器・呼吸器・内分泌/腎臓・糖尿病・神経・血液)・外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・眼科・皮膚科・耳鼻科・放射線科・麻酔科・婦人科・救急科・小児科・こどもこころの専門外来と、自施設内に診療科が多く幅広い研修が可能
複数の問題点のある患者様の診療～治療まで自施設内で完結できるため、総合的に考える力を身につけられます。また150床という中規模施設で、各種検査・処置などもフレキシブルな対応が可能であり、エコーや内視鏡検査なども実習可能です。

2 高知市から約30分という近距離で、地域医療を幅広く経験できる

土佐 IC から車で約5分、高知市内からはバイパスも充実。遠方の場合には職員官舎も完備しています。

3 地域医療の実践

1 次 2 次救急を受け入れる急性期病棟のほか、54 床の地域包括ケア病棟を有し、多職種が連携して、急性期から在宅復帰まで一連の医療を実践しています。地域との連携を重視し、在宅医療にもつなげています。

▶ 2年間のローテーション例



▶ コースの特徴

- ★ **医局では全科の医師が和気あいあいいつでも相談しやすい環境** (常勤医 22 名、うち女性医師 6 名)
- ★ **4 人の指導医がいるため、多面的な指導が可能**
- ★ **救命救急センターを有する急性期病院・災害拠点病院** 3 次救急から Common disease まで幅広い経験ができます。また災害拠点病院として災害医療についても学べます。

Model Course

10

高知生協病院・高知赤十字病院群コース

県都での総合診療専門医の役割を知り実践しよう



高知生協病院

▶ 研修可能な領域



新入院カンファレンス



指導医 家庭医療科 佐藤 真一

▶ 高知生協病院 紹介

1 救急医療から在宅医療まで

外来医療、入院医療、在宅医療を通して Common disease を豊富に経験し、患者さんをトータルにマネジメントする能力を身につけることができます。

2 高知県下最大の在宅医療ネットワーク

強化型在宅療養支援病院 (高知市の 7 つの在宅医療機関と連携し、当院 350 件・合計 1100 件訪問) として在宅⇔入院の双方に関わることで、将来病院、診療所でもその経験を生かせます。

3 連携と継続性

地域包括病棟を有しており比較的退院まで余裕があるため、担当した入院患者さんの退院後を見据えた関わりを病院スタッフや連携する在宅介護スタッフと一緒に行うことができます。

▶ 2年間のローテーション例



▶ コースの特徴

- ★ **振り返りの重視** 初診外来終了後毎行われる振り返りと 1 週間の振り返りを通して、印象に残ったこと・できたこと・できなかったこと・次への課題を確認していくことで医師としての成長をサポートしていきます。
- ★ **地域ヘルスプロモーションの実践**
他のコースにはない特徴として、県下 5 万名の医療生協組合員が取り組む健康増進活動 (地域でのサロン、こども食堂、班会、古民家カフェ)に関わり、医師が地域ケアに関わることが社会的孤立の予防や地域住民が生きがいを持って過ごしていくのに大きな役割を果たせることを学んでいきます。
- ★ **救命救急センターを有する急性期病院・災害拠点病院** 3 次救急から Common disease まで幅広い経験ができます。また災害拠点病院として災害医療についても学べます。

専門研修3年次

専門研修3年次は、「総合診療Ⅰ」の研修を行います。

高知家プログラムでは人口集中地域から中山間地域まで県内全域で20の連携施設があり、専攻医のニーズに応じた研修施設をマッチングしています。

20の連携施設

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1 社会医療法人仁生会 細木病院 | 11 くぼかわ病院 |
| 2 高知医療生活協同組合 高知生協病院 | 12 四万十市国民健康保険 四万十市立市民病院 |
| 3 医療法人臼井会 田野病院 | 13 医療法人聖真会 渭南病院 |
| 4 医療法人公世会 野市中央病院 | 14 医療法人長生会 大井田病院 |
| 5 本山町立国民健康保険 嶺北中央病院 | 15 大月町国民健康保険 大月病院 |
| 6 地域医療機能推進機構 高知西病院 | 16 医療法人そらのいろ あおぞら診療所高知潮江 |
| 7 いの町立国民健康保険 仁淀病院 | 17 やまと診療所高知 |
| 8 佐川町立 高北国民健康保険病院 | 18 仁淀川町国民健康保険 大崎診療所 |
| 9 梶原町立国民健康保険 梶原病院 | 19 四万十町国民健康保険 大正診療所 |
| 10 医療法人五月会 須崎くろしお病院 | 20 四万十市国民健康保険 西土佐診療所 |

▶ 専門研修3年次の週間スケジュール（嶺北中央病院の例）

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
7:00							
8:00							
9:00	健診 ※特定健診・職場健診・予防接種・学校健診	初診外来	外来検査 ※心臓・腹部超音波検査・上部消化管内視鏡検査	初診外来	大川村診療所 外来	土曜外来 (初診・予約)	
10:00							
11:00							
12:00			褥瘡回診				
13:00	予約外来	訪問診療 ※特別養護老人ホーム・ケアハウス	早明浦病院 小児科研修	訪問診療 ※グループホーム・在宅	外来透析 初診外来 リハビリカンファ		OFF
14:00							
15:00							
16:00						OFF	
17:00				医局カンファ・医局会			
18:00							
19:00			病院単独では小児の患者さんが少なかったため、小児のプライマリ・ケアを学ぶ機会を週1回設定してもらいました。				
20:00							



当直：月5-7回
待機：月4-5回
土曜日外来（午前）：月1-2回
介護認定審査会：月1-2回
糖尿病委員会：月1回

※ 訪問診療
特養：月2回（40人）
ケアハウス：月2回（30人）
グループホーム：月1回（8人）
在宅：月1-2回（4-6人）

※ その他
幼稚園・小学校健診
大川村国保運営委員会
地元企業での健康教育講演
大川村特定健診
・積極的支援対象者個別指導
・動機付け対象者へ教育講演



1 社会医療法人仁生会 細木病院

高知市 ・病床数：456床 総合診療Ⅱ 総合診療Ⅰ

- 地域の中心的病院として急性期疾患の対応から回復期、慢性期、在宅医療、精神医療、緩和ケアまで一貫したヘルスケアを担うケアミックス型病院です
- 同じ病院グループの日高クリニックでは、日高村内唯一の医療機関として市民のかかりつけ機能を果たしており、小児から高齢者まで地域が必要とするプライマリ・ケアの実践と高齢者の医療・介護連携を学べます
- 週に1回程度日高クリニックでの研修が可能です



4 医療法人公世会 野市中央病院

香南市 ・病床数：165床 総合診療Ⅰ

- 急性期から慢性期まで4つの病棟があり、様々な疾患を経験できます。また近隣の診療所からの紹介や高次医療機関からの下り搬送・転院も多く、年間平均病床稼働率は90%を超えます
- 福利厚生がしっかりしており、また時短勤務なども認めているため、仕事と家庭の両立をしながら働ける環境にあります



7 いの町立国民健康保険 仁淀病院

いの町 ・病床数：60床 総合診療Ⅰ

- 地域のの中核病院として急性期から慢性期の医療を担い、幅広い症例の研修が可能で、訪問看護ステーション、介護老人保健施設を併設しており、在宅医療や医療介護の連携による地域包括ケアシステムなど地域医療を学ぶことができます



2 高知医療生活協同組合 高知生協病院

高知市 ・病床数：114床 総合診療Ⅱ 総合診療Ⅰ

- ロールモデルとなる3名の特任指導医とともに振り返りを通じて総合診療専門医に必要な知識・スキル・態度を学ぶことができます
- 高知市内で最大規模の在宅療養センターを有しており、入院から在宅まで一貫した流れの中で経験できます



5 本山町立国民健康保険 嶺北中央病院

本山町 ・病床数：99床 総合診療Ⅰ

- 地域の中核病院として、急性期から慢性期を担い、救急では、高次医療機関と連携して幅広い患者に対応しています
- 行政と協力して、検診、住民教育を含め、在宅医療、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます



8 佐川町立 高北国民健康保険病院

佐川町 ・病床数：98床 総合診療Ⅰ

- 内科診療の特徴は総合診療を行っていることです
- 一人の患者さんを包括的にそして責任を持って診療しています
- 介護保険と医療の連携を重視し、退院調整などを丁寧に行っています



3 医療法人臼井会 田野病院

田野町 ・病床数：103床 小児科 総合診療Ⅰ

- 県東部の中核施設です
- 院内・在宅において、乳幼児から高齢者まで、地域性や家庭環境等を考慮した診療を行います
- 患者様を中心とした多職種・多機関連携、産業医活動等を通して気づきの多い研修が経験できます



6 地域医療機能推進機構 高知西病院

高知市 ・病床数：154床 総合診療Ⅰ

- 急性期疾患だけではなく、回復期リハビリテーション、透析医療、健診にも関わりながら、一般内科として幅広い疾患のさまざまな病態の患者さんを他科とも連携しながら全人的に診療することができます



9 梶原町立国民健康保険 梶原病院

梶原町 ・病床数：30床 総合診療Ⅰ

- 梶原病院は良質なプライマリ・ケアの提供と救急医療の確保、積極的な保健予防活動を通して地域の医療ニーズに応えます
- 行政や介護サービス部門とも協働し、町全体で住民の健康を守る地域包括医療・ケアを学んでください



10 医療法人五国会 須崎くろしお病院

須崎市 ・病床数：158 床 総合診療Ⅰ

- 高幡地域の2次救急病院として、内科系、外科系ともに幅広い初診患者の症例を経験できます
- 緩和ケア病棟もあり、がん末期患者さんへの対応も学べます
- 在宅での看取りも行っており、訪問診療、在宅医療も十分に経験できます



11 くぼかわ病院

四万十町 ・病床数：172 床 総合診療Ⅰ

- 高幡地域の中核病院として、急性期から慢性期までを担い、人工透析の診療も行っています
- 訪問診療や訪問リハビリテーションをはじめ、併設の介護老人保健施設、訪問看護ステーションなど、在宅へとつながる医療に力を入れています



12 四万十市国民健康保険 四万十市立市民病院

四万十市 ・病床数：55 床 総合診療Ⅰ

- 幡多医療圏で最も人口の多い四万十市の中心部にあります
- 急性疾患への対応と慢性疾患の管理を同時に研修できます
- 実践重視であらゆる疾患の治療を経験できます
- 医師不足の地域であり地域医療にも貢献できます



13 医療法人聖真会 渭南病院

土佐清水市 ・病床数：105 床 総合診療Ⅰ

- 外科の専門医が縫合等の小手術や外科全般に対する急性期～在宅までの治療について教育・指導にあたります
- 外傷疾患に関しては整形外科の知識や技術を習得することも可能です



14 医療法人長生会 大井田病院

宿毛市 ・病床数：50 床 総合診療Ⅰ

- 幅広い内科疾患や簡単な外科的処置に対して知識や臨床能力を十分に発揮できる現場で、臓器に特化しない総合的な医療を展開できます
- 在宅医療にも積極的に取り組み、地域のゾーンディフェンス型医療を習得できます



15 大月町国民健康保険 大月病院

大月町 ・病床数：25 床 総合診療Ⅰ

- 救急対応や外傷診療などの急性期医療から、訪問診療や生活習慣病の管理などの慢性期医療まで、幅広い診療に当たっていただきます
- 希望があれば沖の島の離島診療支援業務に携わることも可能です



16 医療法人そらのいろ あおぞら診療所高知潮江

高知市 ・病床数：無床 総合診療Ⅰ

- 訪問診療、往診を行い、24時間対応を実施している在宅療養支援診療所です
- 老衰関連疾患、心不全、腎不全、呼吸器疾患、進行性神経難病、医療ケアが必要な重度障がい児者、末期がんや在宅看取りを希望する方など、在宅医療が必要なさまざまな患者様に対応しています



17 やまと診療所高知

高知市 ・病床数：無床 総合診療Ⅰ

- 高知市中心部で家庭医療を行っています
- 乳幼児から高齢者まで、一般外来・発熱外来・予防接種・学校医活動を経験できます
- 在宅診療では多職種との連携で看取り・多くの複雑困難事例を経験でき、ポートフォリオ事例に困ることはありません



18 仁淀川町国民健康保険 大崎診療所

仁淀川町 ・病床数：無床 総合診療Ⅰ

- 地域住民にとって身近なへき地診療所であり、多種多様な疾患や健康問題への対応、総合的な医療対応を行い、役場(包括支援センター)や介護事業所などとも連携し、住み慣れた自宅での生活が続けられるようサポートしています
- 令和3年に新しくなった診療所で、医療機器など設備も充実しています



19 四万十町国民健康保険 大正診療所

四万十町 ・病床数：19 床 総合診療Ⅰ

- 外来・入院・訪問診療で地域の小児から高齢者まで対応し、また救急車対応から在宅看取り、地域包括ケア、予防教育に取り組んでいます
- 整形疾患の訴えの方が多く、運動器エコーによる評価、Fascia リリースを取り入れています



20 四万十市国民健康保険 西土佐診療所

四万十市 ・病床数：19 床 総合診療Ⅰ

- 西土佐地域で唯一の医療機関として、地域住民に寄り添った幅広い対応を行い、地域の多面的ニーズに応えています。病棟では主に慢性期の患者対応のほか、老人福祉施設、保育所、小・中学校の校医等も行っております。



高知家総合診療 専門研修プログラム Q&A

Q. SEED (地域枠) でも研修できますか？

A. できます！ SEED の皆さんは初期研修修了後7年の勤務義務があり、そのうち3年6か月以上を高知市・南国市以外で勤務する必要がありますが、このプログラムでは、最大2年9か月を高知市・南国市以外で行うことが可能です。

Q. 身分・給与はどうなりますか？

A. 専攻医は3年間の研修期間を通して、高知医療再生機構の常勤職員として雇用されます。勤務時間、休日・休暇、給与、宿舍等については研修先の医療機関の規定に従います。なお、給与については各研修施設の常勤職員相当額を基本としています。さらに一時金を支給し、施設による給与額に大きな差が生じることがないように配慮しています。(詳細はお問い合わせください)

Q. 妊娠、出産といったライフイベントへのサポートはありますか？

A. あります！ 研修期間中は研修施設が変わっても高知医療再生機構の常勤職員であることは変わりません。従って、産休・育休についても保障されますし、当直や時間外対応についても個別の相談に応じて柔軟に対応しサポートします。

Q. 研修修了後のサブスペシャリティ取得は可能ですか？

A. サブスペシャリティ領域を深めたい場合には家庭医療専門医(日本プライマリ・ケア連合学会認定)や病院総合診療専門医(日本病院総合診療医学会認定)の取得を目指すことができます。

Q. 他の専門領域とのダブルボードは可能ですか？

A. 総合診療専門研修修了後に、他の領域の専門研修に進むことも、他の専門研修修了後に総合診療専門研修に進むことも可能です。専門領域によっては、その後の研修期間の短縮が可能な場合があります。ダブルボードを目指す場合にはご相談ください。

自分のやりたいことができ、それが誰かの役に立つというしあわせ

2024 年度研修開始

前田 佳純 (2021 年度 筑波大学医学群卒業)

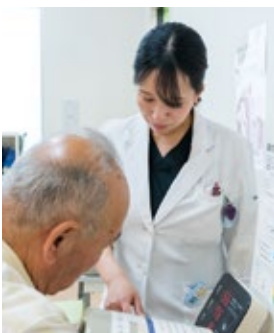
専門研修1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
高知県立あき総合病院 総合診療Ⅱ	産休 育休	あき総合病院 総Ⅱ 小児科	高知医療センター 内科 救急科	(施設未定) 総合診療Ⅰ

※研修は3年ですが、ライフイベントなどの事情にあわせて柔軟な組み立てが可能です。



Carrier Image

Learning & Training



病気だけでなく、人を診る

高知で医師として働くことをイメージしたとき、浮かんできたのは総合診療医。家庭医である父の姿を小さい頃から見てきたこと、そして人と話すことが好きな自分にいちばん合っていると思ったことが理由です。

研修医の間はどちらかというと、「こんな時どうするか」という病気に対する判断や治療を中心に勉強しましたが、専攻医の今はそこも学びつつ、病院からご自宅や地域に帰った後、患者さんに何が必要なのか、誰に頼ればいいのかといった全体的なことを診ています。患者さんを支える地域包括ケアの要として、ご本人にとって最適な治療や支援の方針をまとめていけるよう、経験を重ねています。

自分の「できる」「できない」が、地域医療の質を左右

研修医時代、地域のいろいろな診療所を回ったとき、大抵の施設には胃カメラがありました。赴任して私が胃カメラをできないと、その医療水準は下がってしまいます。そこで、内視鏡を学びたいと指導医の先生に相談したところ、前例がない中、調整して消化器内科を研修に組み込んでくださいました。とてもありがたく、その期待に応えたいと思っています。総合診療医への道はまだ途中ですが、学生よりも研修医、研修医よりも専攻医と、年々楽しさは増しています。日々自分のやりたいことができ、それがちゃんと患者さんの役に立っている——そのことが今、何よりしあわせだと感じています。

My Ambition

医療の場が多様化する中、赴任する施設や地域によって総合診療医に求められる役割も少しずつ異なるはず。だからこそ、行った先のニーズに合わせて動ける医師、困りごとを解決できる医師になりたいと考えています。



指導医から

県東部の中核病院である当施設最大の特徴は、“地域密着”。総合診療においても地域に密着した外来、救急、入院、在宅診療を行っており、地域のケアマネ、地域包括支援センターのスタッフなどと連携して地域医療に取り組んでいます。また、総合診療医の根幹は、脳外科や婦人科など他科の医師からの信頼を得ることにあります。地域では老老介護、認知介護なども増え、専門性の高い治療を選択しない（できない）人が増加しています。だからこそ総合診療医が連携の要となり、その方にふさわしいオーダーメイドの医療を作っていくことが求められています。ぜひ一緒に総合診療専門医を目指しましょう。

高知県立あき総合病院 病院総合医養成センター長・総合診療内科部長 的場 俊 先生



病気のある人を、その人の暮らしごと、地域ごと、診ることができる医師に

2022 年度研修開始

長崎 健一 (2018 年度 高知大学医学部卒業)

専門研修1年次	2年次	3年次	4年次
高知県立あき総合病院 総合診療Ⅱ	内科	高知医療センター 小児科 救急科	高知生協病院 総合診療Ⅰ

※研修は3年ですが、ライフイベントなどの事情にあわせて柔軟な組み立てが可能です。



Carrier Image

Learning & Training

複数の疾患を持つ患者さんを支えるチーム医療の橋渡し役

もともと再生医療などの基礎研究に興味があり、学生時代は免疫学教室で実験に没頭。でも一生の仕事か？と考えたとき、研究ではなく臨床、中でもやりがいを持って取り組めると感じた総合診療の道を選びました。

専門研修1～2年目の高知県立あき総合病院では、外来と病棟を受け持ちながら、特に他科との併診について学びました。地域で暮らす患者さんは、基本、複数の問題や病気を抱えています。そこで総合診療医が患者さんの全体を診て、他科の先生方との橋渡し役として調整を行うことで、患者さんの望む治療と生活を実現します。3年目は高知医療センターで、三次救急医療におけるさまざまな救急対応を経験しました。

限られた環境でも、患者さんを診ることができるように

4年目の現在は高知生協病院で、慢性期の患者さんの外来や在宅医療について学んでいます。総合診療は、限られた設備の中で患者さんを診ることも少なくありません。だからこそ自分の限界を知り、できないときは迷わず他科に紹介するようにしています。このプログラムでは、指導医や統括責任者の先生方が専攻医一人ひとりを視て、研修の進捗やプライベートの状況に応じて臨機応変に研修の調整をしてくださいます。決まったルールではなく、自分の望む目標を組み立てて進んでいきたい人におすすめです。



My Ambition

最近ある先生に言われてハッとしたのですが、私たちがよく使っている「患者さんの背景」という言葉——これは、患者さんの側から見ると「全容」です。患者さんの全容を診ることのできる医師になりたいと思っています。



指導医から

当施設は、高知市西部地域で年間300前後の救急車を受け入れながら、350人前後の訪問診療を行っています。特に訪問診療は数が多く、特徴の一つだと言えます。外来では多くの Common Disease とトラウマを抱えた子の思春期医療を経験できます。これまで1名の家庭医療専門医の養成に関わりました。総合診療専門医・家庭医療専門医は、心と体をバランスよく診ることが求められます。専攻医が患者さん、ご家族、その背景を洞察し、ヘルスマネジメントを行っていくためには、自らの心と体のセルフコントロールが必要です。毎週の振り返りを通して専攻医の特徴に合わせた指導を心がけています。

高知生協病院 家庭医療科部長 研修統括責任者 佐藤 真一 先生

